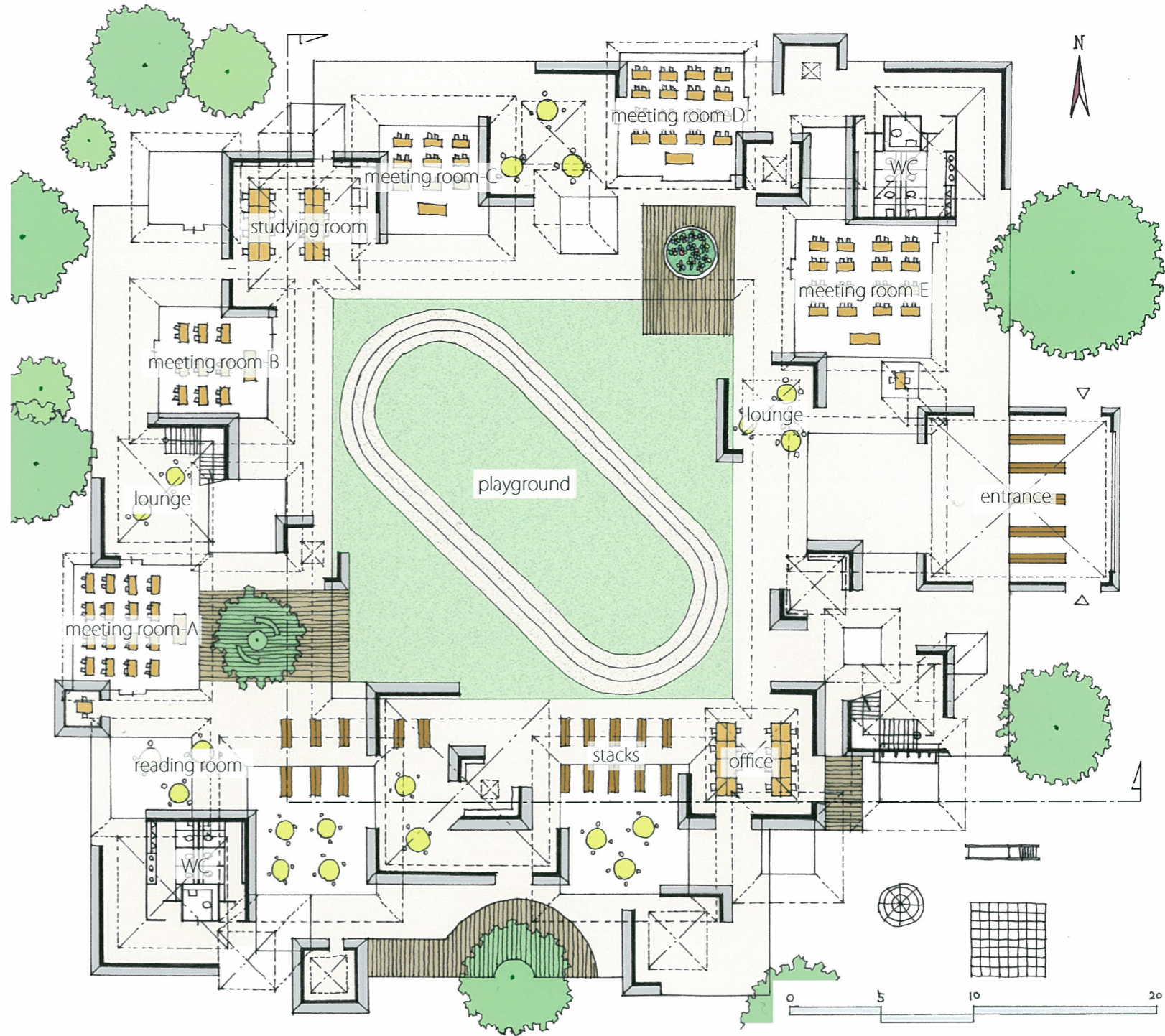
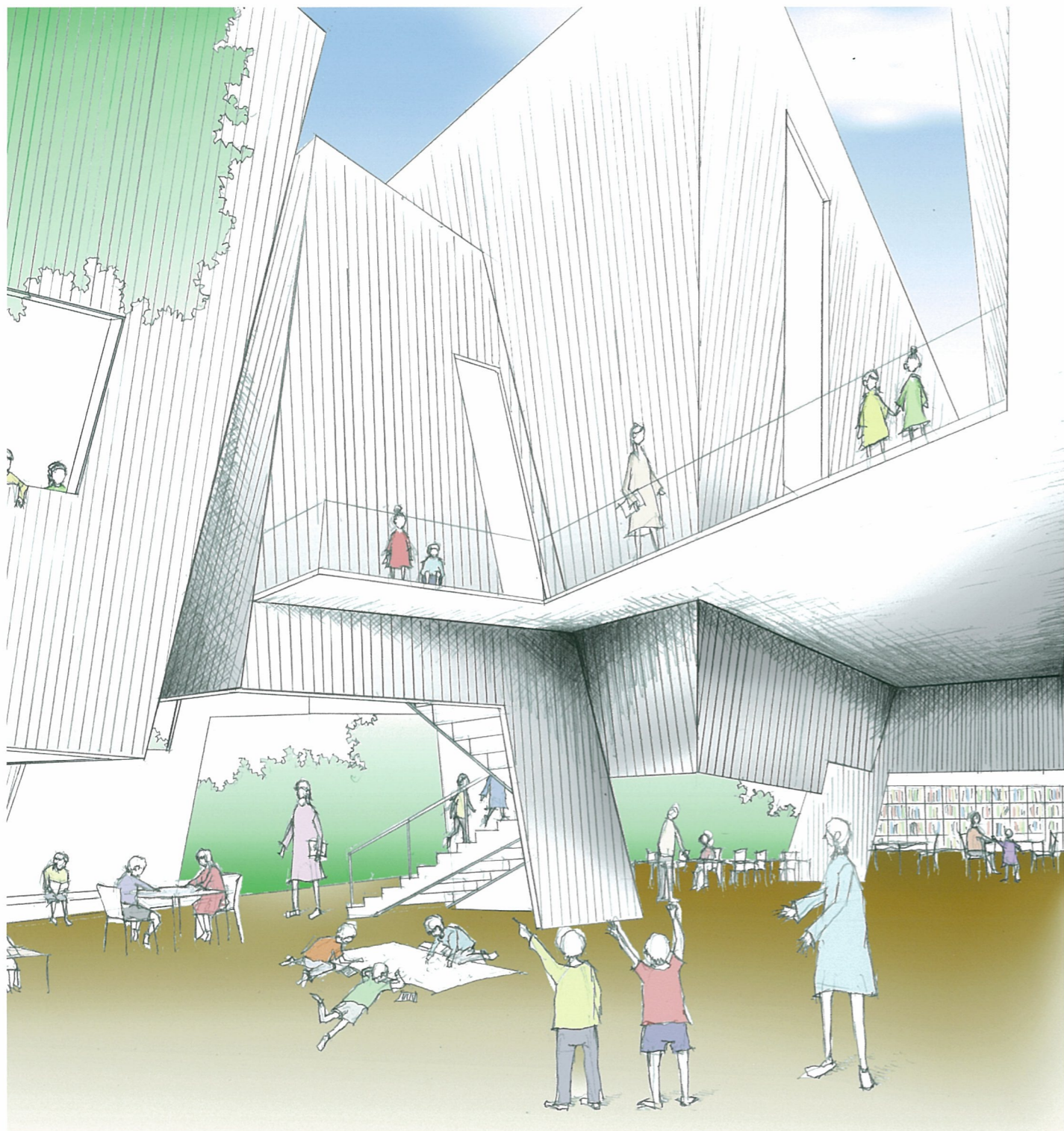


Slip Frustum

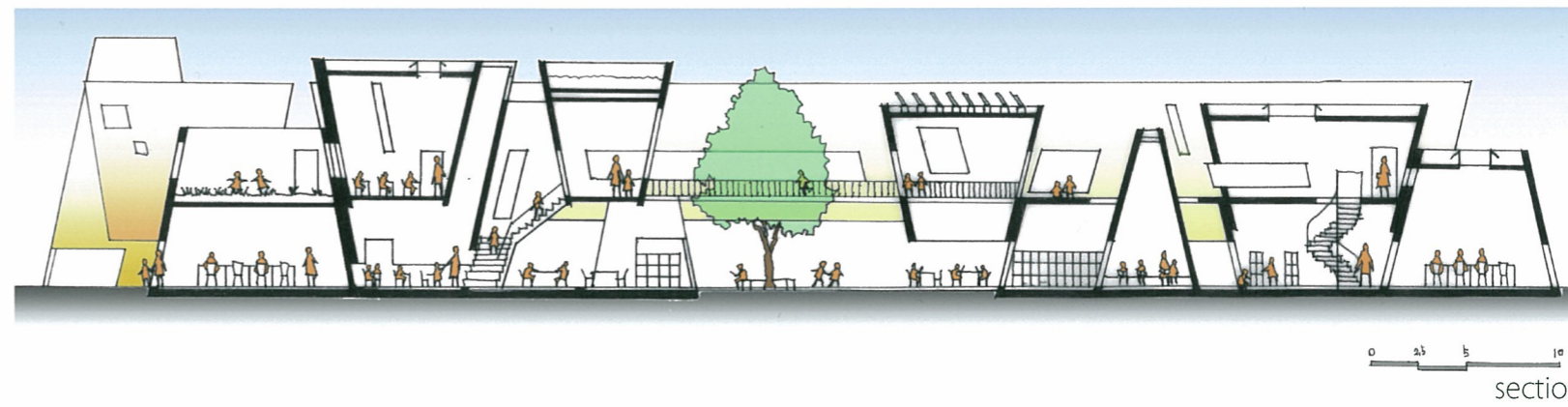
古都奈良に現存する寺社建築は、日本の歴史上重要な価値を持ち、造型物としても魅力的である。

その工法は歴史と共に少しずつ発展してきたが、現代の木造建築にはあまり見ることのできない多種多様な組み物の形式が採用されている。一見複雑に絡み合っているように見える継手・仕口ではあるが、一つ一つの形態はシンプルであり、単体の接合部のみでは不安定なものも多い。しかし、複数の部材の立体的な組み合わせと、重力により生じる力の流れを利用することで、構造的な強度・剛性を生み出し、現代まで建ち続けることを可能にする架構形式として成立する。組み物による接合方式は、組立とは逆の手順を追うことで、部材に損傷を与えることなく解体が可能であり、再び組み直すこともできる。

この技術をモチーフとし、再生・修復を繰り返すことのできる新しい形態創生手法の提案を行う。



plan



section

本提案を利用し、図書館と幼稚園を併設した建物を考案した。この例の場合、図書館の書架の増設や幼稚園の園児数の増減、施設内のレイアウト変更の際に有効に活用できる。スケルトン・インフィルの様な従来の方法にとらわれない、自由度の高い建物の更新手法にもなり得る。

